

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201020		
法人名	医療法人社団 豊生会		
事業所名	グループホームすぎの子家族		
所在地	札幌市東区伏古6条4丁目1番18号		
自己評価作成日	令和元年10月9日	評価結果市町村受理日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流センターでのサークル活動に参加し、社会参加と地域交流をしている。訪問リハビリと連携し、日常生活の活動の中で、リハビリに繋がるような介護の提供に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kanji=true&JigyosyoCd=0190201020-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

幹線道路沿いのスーパーや銀行、食堂街にありながら住宅街に面しており、利便性と閑静さを併せ持つ好環境に恵まれた2階建て3ユニットのホームである。建物内には地域交流センターとクリニックが併設されており、利用者は、地域交流センターの手芸や花カフェなどのサークル活動、認知症オレンジカフェに積極的に参加し、一方、ホームの運営する共用デイサービスには地域の人が参加し、楽しみながら地域の人と触れ合い、絆を深めている。運営母体が医療法人であることから医療面・健康管理面の充実が図られており、訪問診療、訪問看護、理学・作業療法士、言語聴覚士による訪問リハビリ、歯科衛生士による口腔ケア指導が取り入れられている。利用者は、毎日、膝や足腰の弱っている人に過度の負担を掛けないリハビリ機器などを使った個別リハビリをうけ、筋力の維持・向上に努めている。家族へのアンケート調査によると、入居数年になるが介護度が下がらず大変助かっているとの感謝の言葉が聞かれる。看取りの実績もあり、家族には毎月、写真を添えた手紙で個別の状況を伝えるなど、家族の安心感、信頼感、満足度の高さに繋がっている。職員は、掃除・洗濯など介護助手の採用により介護に集中でき、利用者の背中や手足を包み込むように触れるタクトイルケア、各個人の願望をかなえるダイバーショナルセラピー、眠れない時のアロマセラピーなど利用者本位の心のこもったケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の構築を共に行い、各ユニットに掲示している。	開設時に職員と共に策定した事業所の理念、各ユニットごとの理念を玄関・各ユニットのスタッフルームに掲示している。事業所の年間目標を定め、上期・下期に評価を行い、研修で理念を振り返り、その実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流センターのサークル活動に参加させていただいている。	町内会に加入し、清掃、資源回収などの行事に参加している。町内の店での買い物、ホームの共用型デイサービスへの地域の人の参加、併設の地域交流センターのサークル活動への参加、認知症カフェ、住民からの介護相談など日常的に地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域から相談があった際に、状態をお聞きして支援に繋げている。依頼を受けて認知症サポーター養成講座の講師をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者からの意見を参考に、サービスに反映している。	町内会長、包括支援センター職員、数名の家族、商店街代表が出席して定期的に開催している。事業所の状況・活動報告、事故報告、身体拘束廃止、災害対策など意見交換を行い運営に反映している。会議案内と議事録は全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点がある時は随時確認をとっている。法人内GHに伝達した方がサービスの向上に繋がることは、随時伝達している。	区や市の管理者連絡会議には管理者が積極的に出席している。事故報告、各種の届け出、増床に伴う質疑事項について、担当職員のもとへ足を運び密な連携に努めている。地域の人からの相談を包括支援センターにつないだり、相談を受けたりしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯上の夜間の施錠は行っているが、ホーム全体を自由に行き来して頂いている。マットコールは身体拘束ではないが、同じ書類を使って状態の把握に努めている。	身体拘束廃止の指針を策定し、身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催している。職員は、年2回の研修を受講し、身体拘束廃止への理解を深めるとともに、言葉による抑制についても気を付けている。アセスメントで転倒防止のためマットコールの必要な時には家族に説明し介護計画に載せ、運営推進会議でも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者がユニットに入り、職員と一緒に介護を行っている。その際に注意を払っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度実施している。今年度は10月に行う予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に情報提供を行い、その際に意見を伺っている。	日頃から、利用者にとのようによいかを伺うよう心掛けている。家族の来訪時には、利用者の状況を伝え、毎月利用者の暮らしぶりを手紙で報告し、何かあったら気軽に相談できることを伝え、様々な機会を通じて家族の意見を捉えて運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議時・人事考課面談時に機会を設け、必要に応じて反映させている。	管理者は、月1回の全体会議で職員の意見・要望を聞くよう努めている。毎日各ユニットを回り職員と接して話しやすい雰囲気を醸成し、随時の面談に応じている。人事考課に伴う年2回の面談では職員から多くの意見・提案が出され、運営やケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ、各自の生活状況を考えてシフトを作成し、労働時間についても確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な資格取得のためのシフト調整を行っている。研修開催の周知と、参加を呼び掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内の管理者連絡会議への参加と法人内のグループホーム合同の研修会を企画し、交流と質の向上を目指している。管理者が介護福祉士会に入会し、情報提供をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は出来るだけご本人の生活ペースを大切にしながら、ご本人の要望をお聞きして対応していた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が大切にしているものをお聞きして、確認を取りながら実践することを続けてきた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時必要なサービスをご本人、ご家族と確認して支援する。体調変化や介護度の変化によって、随時話し合いをして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の役割、出来ることを考えて、実践できる場を設けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の想いを大切に、何かを考える時にご家族の意見をお聞きして、共に決定していくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の許可を得られた場合に、なじみの方との面会をして頂いている。	親族や馴染みの人の来訪も多く、居間・居室でゆっくり寛げるよう配慮している。ドライブ中思い出の場所を通ったり、馴染みの美容院の利用、入院中の家族の定期的訪問、電話かけなど、今までの暮らし方が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・おやつ以外でも一緒に過ごす場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族に対するフォローを地域包括支援センターの職員と情報交換を行い、在宅生活のサポートをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴をお聞きして、今までの暮らし方を参考にして、出来るだけご本人の想いを基本にしている。	利用者の日常の会話、会話の難しい利用者からは表情や仕草で思いを把握し、家族からの情報とともに個人記録に書き留め職員間で共有している。生活歴などのフェイスシートは定期的に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の把握、他事業所からの情報の把握をし、フェイスシートに追記している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録にご本人の言葉や行動を記録して、把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議時にアセスメントを行い、担当者以外の意見も反映している。リハビリ職員、栄養士にも相談して作成している。	利用者個々の担当職員、リハビリ職員は、毎月モニタリングを行っている。介護計画、リハビリ計画は、本人・家族の意向、医師の意見を踏まえ、ユニット会議で職員間で検討し、3月毎に見直すとともに、状況に変化がある時は随時見直して現状に沿った計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人に協力を求めて、出来る範囲で支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流センターでのサークル活動に参加し、交流と社会参加をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り、かかりつけ医での受診を継続しているが、身体状況の変化により、訪問診療へと切り替えている方が多い。	利用者の意向で従前のかかりつけ医を継続しているが、法人のクリニックが併設され月2回の訪問診療があることから切り替える利用者が多い。週1回の訪問看護、毎日の個別リハビリ、月1回の呑み込みサポートがあり健康管理体制、リハビリ体制が充実している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に情報を伝えて、必要な医療に繋げている。訪問診療の看護師とも随時情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行き、病院相談員と連絡を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に文書で説明を行っている。また体調に応じて、看取りの指針を改めて確認している。終末期についての地域とのチーム支援は取り組んでいない。	契約時に重度化・看取りの指針を説明している。状況悪化に応じて家族、医師を交えて話し合い、リハビリ職員とも連携を取り安楽になる方法を盛り込んだ看取り計画を策定している。これまで、数件の看取りを経験しており、看取りの後には振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練を実施していないが急変時のフローチャートを作成して掲示している。随時、どのように対応するかを確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施している。年1回は地域の方と共に実践をしている。	年2回の防災訓練を行っており、うち1回は消防、地域の人々の参加を得ている。避難場所の周知、連絡網の整備、非常時の水・食糧・カセットボンベ・防寒用品などを備蓄しているほか、昨年の地震発生で停電対策の強化を図っている。11月には地震訓練を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	命令口調や子供に対する言葉遣いはしていない。名字で呼ぶことを基本にしているが、その方によって名前でも呼ぶこともある。	契約書に、利用者の権利として人格の尊重・プライバシー確保・尊厳の維持を謳っており、職員は接遇研修をうけ、言葉掛けや接し方に意識して関わっている。個人台帳などは事務室の鍵のかかるロッカーに保管している。	外国人労働者の受け入れを予定しているとのことなので、倫理・接遇について模範となるよう職員の研修、意識の向上を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できる場面を多く持つように心がけている。着替え・食事・おやつなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間をベースにして、1日の組み立てを考えている。その際に、本人の希望する行動が出来るよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、随時美容室、理容室への利用を声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調に応じて、食事の準備、片づけを共にやっている。	夕食のみ外部の食材業者を利用している。昼食と朝食は、共用デイサービスのメニューに利用者の好みを反映させている。鍋パーティー、外食・出前など楽しい食事となるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	適量を考えて、水分補給もゼリーなど摂取しやすい形態にして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを実施し、歯科衛生士から指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを確認して、出来るだけ失禁のないように支援している。	個々の利用者の排泄パターンを把握し、表情などを見ながら声かけ・誘導を行ないトイレでの排泄の自立にむけた支援をしている。衛生用品の使用にあたっては、その人に最適なものを検討し使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬ではなく、生活の中で改善できるように食事内容を工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の予定をお聞きしながら、支援をしている。	週2回の入浴を基本として、利用者ごとに毎回湯を取り替え浴槽を洗い、気持ちよく入浴ができるよう配慮している。同性介助希望者には職員のシフトを組んで対応している。入浴をゆったりと寛ぎ楽しめるよう、好きな入浴剤の使用、音楽や会話、温浴シャワーチェア・リフト浴設備も導入している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて休憩時間を持っている。夜間は生活ペースを考えて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録を共有し、薬剤師の説明を聞いて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみがあるように、役割を持って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ、戸外に出る機会を持っている。また希望をお聞きして、外出行事を実施している。	天気の良い日の散歩、買い物、玄関前の桜や花壇を眺めての日光浴などで気分転換を図っている。寒くても少しは外へとゴミ捨てに行き、一緒に近くを回ったりしている。外出行事は月1回を目安に花見、紅葉狩り、大型公園散策、道の駅へのドライブのほかちょっとアイスクリームを食べるになど、外出の機会を多く楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方もいる。買い物やサークル活動に行った時に、ご本人が自分で支払いをする機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が希望した時に、電話をする支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日温湿度の確認を行い、色彩に配慮している。	各ユニット入りロドアのリース飾り、カーテンの色の統一、洗練された手作りカレンダー、壁の創作飾り、金魚水槽、テーブル上の花、広々とした居間と食堂など、ゆったりと寛げる落ち着いた共用空間となっている。室内は、日に2回の温湿度チェックと毎日の清掃により清潔に居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとダイニングを分けており、好きな場所で過ごせるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になじみの家具を持ってきていただいている。	全室入り口に飾り棚が設けられ、職員によって季節に合わせた飾り付け、利用者の好みの物で飾られ、自室に戻るのが楽しみとなる雰囲気である。タンス・テレビなど馴染みのものを持ち込み、家族の写真、人形など思い思いに飾り、自分の部屋として居心地よく過ごせるよう工夫している。中には、仏壇を持ち込み毎日の礼拝を欠かさない利用者も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車いす使用であっても十分なスペースを確保している。		